

=====

** 日本学術会議ニュース・メール ** No.727** 2020/10/23

=====

1. 【開催案内】日本学術会議主催学術フォーラム
「人口縮小と「いのちの再生産」 コロナ禍を超えて持続可能な幸福社会へ」
2. 【開催案内】日本学術会議北海道地区会議主催 学術講演会
「感染症との共存の現在と未来」
3. 【開催案内】公開シンポジウム
「One health：新興・再興感染症～動物から人へ、生態系が産み出す感染症～」

■-----

【開催案内】日本学術会議主催学術フォーラム

「人口縮小と「いのちの再生産」 コロナ禍を超えて持続可能な幸福社会へ」

-----■

・日時：2020年11月25日(水) 13:30-17:00

・場所：オンライン開催

・主催：日本学術会議

・開催趣旨：

世界はいま、コロナ禍で大きく揺さぶられています。しかし、コロナ禍以前から われわれに突きつけられていた人口減少・少子高齢化問題を忘れるわけには生きません。この問題は世界とわが国社会経済の成り立ちと持続可能性を根幹から揺るがしつつあります。本シンポジウムでは、人口変化の状況、課題をふまえた上で、コロナ禍を超え、次世代へ向かう「いのちの再生産」について考えましょう。

・次第：<http://www.scj.go.jp/ja/event/2020/299-s-1125.html>

・参加費：無料

・要・事前申し込み：以下のURLからお申し込みください。

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>

・問合せ先：

日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34

電話：03-3403-6295

【開催案内】日本学術会議北海道地区会議主催 学術講演会
「感染症との共存の現在と未来」

【開催趣旨】

COVID-19の世界的な拡大により、経済活動、生活様式、教育の在り方など、様々な面で大きな変革が求められています。一方、COVID-19への対応の裏で、他の多くの感染症問題が後回しにされていることに、多くの専門家が警鐘を鳴らしています。現在、どのような感染症が問題となっており、またCOVID-19との共存に向けてどのようなパラダイムシフトが起こっているのか、専門家を交え情報の共有を行うとともに、これからの社会について考えます。

【主催】 日本学術会議北海道地区会議、北海道大学

【日時】 2020年11月7日（土）13:30～17:00

【場所】 オンライン開催

【プログラム】 <http://www.scj.go.jp/ja/event/2020/297-s-1107.html>

【参加申込み】 参加フォームより登録の必要あり

http://www.scj.go.jp/ja/event/2020/link/297-s-1107_link_1.html

問い合わせ先

日本学術会議 北海道地区会議事務局

(北海道大学 研究推進部 研究振興企画課内)

TEL 011-706-2155・2166 FAX 011-706-4873

Email: kaigi*research.hokudai.ac.jp (*を@に変更)

【開催案内】公開シンポジウム

「One health：新興・再興感染症～動物から人へ、生態系が産み出す感染症～」

【主催】 日本学術会議 食料科学委員会獣医学分科会、日本学術会議 農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会

【共催】 人と動物の共通感染症研究会、岐阜大学、北海道大学獣医学研究院

【日時】 2020年11月14日（土） 13:30～17:20

【場所】 オンライン

【参加費】 無料

【事前申込み】 要

<http://www.scj.go.jp/ja/event/2020/297-s-1114.html>

もしくは <https://www.scj-vetfood.com/blank-6>

【開催趣旨】

私たち人類は、単独で生きているわけではなく、自然界に存在する他の生物と互いに干渉しながら、生態系のなかで進化し共存してきました。今回のテーマである新興・再興感染症は、自然界の生態系で維持されてきた微生物が、何かの拍子に人間社会に入り込み、人間の間で病気を起こし流行するものです。現在、全世界を巻き込み、社会に混乱を呼んでいる新型コロナウイルス感染症COVID-19は、人類が初めて接した感染症であり、まさに新興感染症に位置付けられます。これら新興・再興感染症は、人類誕生以来、自然界の営みのなかで稀な現象として私たちの世界で起きてきました。今回のシンポジウムでは、様々なウイルスによる新興・再興感染症の出現メカニズムから今後の展望について考えてみます。これまでの例をみることにより、闇雲に恐れることなく、正しく恐れ、冷静に対処することの重要性を理解していただきたいと思います。また、今後の展望からは、One health、すなわち医学・獣医学・生態学の観点からの危機管理の重要性もみえてくるはずです。

【プログラム】

<http://www.scj.go.jp/ja/event/2020/297-s-1114.html>

【問い合わせ先】

シンポジウム運営事務局

Email : scj-tox*vetmed.hokudai.ac.jp (*を@に変更)

★

☆

日本学術会議では、Twitterを用いて情報を発信しております。

アカウントは、@scj_info です。

日本学術会議広報のTwitterのページはこちらから

http://twitter.com/scj_info

学術情報誌『学術の動向』最新号はこちらから

<http://jssf86.org/works1.html>

=====

日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らってください。

過去のメールニュースは、日本学術会議ホームページに掲載しております。

<http://www.scj.go.jp/ja/other/news/index.html>

【本メールに関するお問い合わせ】

本メールは、配信専用のアドレスで配信されており返信できません。

本メールに関するお問い合わせは、下記のURLに連絡先の記載がありますので、そちらからお願いいたします。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34